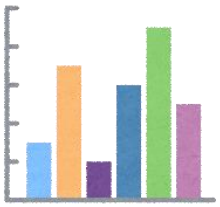
秋田県立大曲支援学校　地域支援部報　Ｎｏ.4

hand in hand

発　行
大曲支援学校
地域支援部
令和4年10月28日

授業実践を紹介します！

特別支援教育に関するアンケート結果を、第３号でお知らせいたしました。研修に関する項目で、興味のある内容として最も多かったのが「障害に応じた学習方法等に関する支援について 83.7%（43 名中 36 名）でした。
今号では、本校の授業の一コマから、授業づくりや学びの特性に対する手立てについて紹介します。



・・・

せんもんかんの部屋 福伝（ふくでん）ROOM

No. 4

秋田県立大曲支援学校
本多 由香

今回のテーマは、「分かる、できるを実感する授業づくり」

センター的機能や専門家・支援チーム等への依頼により、通常学級の授業参観をさせていただく機会が多くあります。先日訪問した小学校低学年のクラスでは、大型モニターを活用しているほか、担任の先生の指示や発問が端的でわかりやすいという様子が見られました。「教科書の所定の箇所に線を引く」という活動では、学習を苦手とする児童（A児）は、担任の先生の口頭での指示には応じる様子は見られませんでした。しかし、先生はすぐにモニターに、その指示を「見える化」しました。するとA児は、さっとモニターを見て、教科書の指定された場所に迷わず線を引いたのです。また、机の整理に夢中になっていたB児も、モニターを見るなり、線引きに取りかかったのです。モニターに手掛かりが映されると分かっていて、そのことが習慣化されているのだなと感じた瞬間でした。A児やB児は、**「自分は、こうすれば分かる」を実感**しているのだろうと思います。

また、ある小学校では、黒板にノートと同じマス割りのボードが貼られ、児童はその書き方を手掛かりにしてノートを取っていました。こうした、口頭以外の視覚情報を用いた指示は、聞いて理解することが得意な児童にとっては、**「なくても困らないけど、あると便利」な支援**とも言えます。

モニターの活用に関しては、ともすれば映し出して終わりになりがちのことも少なくないと感じます。学習効果を上げるためには、児童生徒の実態を踏まえた活用と評価を繰り返す必要があります。「教育の情報化に関する手引　検討案」（文部科学省 2016，2）には、「児童生徒一人一人に課題を明確につかませるためのICT活用」として、「学習指導を円滑に進めるためには児童生徒一人一人が課題を明確につかむことが欠かせない。そのためにICTが活用できる。教科書の問題文や図表を拡大提示することで，教師が言葉だけで伝える以上に，児童生徒一人一人がこれから学習する課題を把握することができる。また，自分の演技とお手本を比較できる映像等を見せることで，他者から言われるのではなく自分自身で課題に気づくことができる。（※下線は、強調のために本多が書き加えたものです）」と示されています。こうすれば「分かる」「できる」と児童生徒が実感し、「もっと知りたい」につながる授業づくりを、共に目指しましょう。

相談・見学等の希望がありましたら、御連絡ください。

秋田県立大曲支援学校

教　　頭：　大沢　貴子（おおさわ たかこ）　　浅沼　和子（あさぬま　かずこ）
教育専門監：　本多　由香（ほんだ ゆか）
地域支援部主任：　丹波　舞子（たんば まいこ）
特別支援教育コーディネーター：　佐々木貴子（ささき たかこ）深谷　ゆき（ふかや　ゆき）
特別支援教育アドバイザー：　高橋　充（たかはし みつる）（大仙市立花館小学校内）
〒014-0072 大仙市大曲西根字下成沢 122　**電話：0187-68-4123**　FAX：0187-68-4122

部報「hand in hand」や各種依頼状様式は、大曲支援学校HPからダウンロードできます。